

第2回国際LNG共同研究会に参加して

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

9月9日、第2回国際LNG共同研究会が弊所において開催された。この会議は、今年の9月に開催された第2回LNG産消会議(LNG Producer-Consumer Conference)において、その立ち上げが発表されたものであり、本年2月に同じく弊所において開催された第1回研究会に引き続き、今回第2回が開催されたものである。

世界のLNG市場は拡大を続けており、今後もクリーンなエネルギーとして、とりわけアジア市場での大幅な拡大が期待されている。しかし、アジアにおけるLNG価格が欧米市場と比して割高であること(いわゆるLNG価格のアジアプレミアム問題の存在)もあって、今後世界で、特にアジアでLNG市場が一層発展して、より大きな役割を果たしていくための課題は何か、という点について、産官学そしてメディアや消費者も含め、幅広く関心の大きな高まりがみられている。その中で、この研究会は、LNG市場のより一層の健全な発展のための課題について議論を行い、本年11月6日に予定されている第3回LNG産消会議に報告を行う目的で、関係国の研究機関が集まり、議論を行ったものである。

今回の第2回研究会には、豪州、インド、シンガポール、台湾、タイ、英国、米国、そして日本の8カ国の研究機関等から、また国際エネルギー機関から専門家が参集した。また、その他にも、関係する主要国からオブザーバーが出席し、計30名弱による活発な議論が行われた。議論の結果や成果については、第3回LNG産消会議での報告予定であることから、この小論では内容には触れない。むしろ、参加した筆者にとっての個人的な所感や印象に残ったポイントを整理してみたい。

まず第1に指摘したいのは、LNG市場の将来における様々な不透明要素の存在である。筆者自身は個人的見解として、アジアのLNG市場の需給バランスについては、少なくとも2020年前後頃までは、アジアのLNG需要の拡大は続くものの、米国LNG輸出の拡大、豪州新プロジェクトの立ち上がり等の要因から、供給には十分な余裕があり、需給は緩和する方向に向かうと考えている。2020年以降も、カナダ、ロシア、東アフリカ等の新規供給プロジェクトの存在を考えると十分(過ぎるくらい)な供給ポテンシャルが存在する、と見ている。しかし、今回の議論においては、需給両面に極めて大きな不確実性が存在しているのではないかと、この見解が多く参加者から指摘された。

すなわち、需給双方において、その伸びを大きく拡大・縮小させうる諸要因が存在している、との見方である。需要面で、伸びの拡大に寄与する要因は、大気汚染対策の強化による石炭から天然ガスへの需要代替の加速化、想定外の原子力発電の不調による天然ガス需要の拡大、等が言及された一方、逆に伸びを抑制する要因としては、主要国における経済成長の鈍化、日本における原子力再稼働の進展、LNG 価格高止まりによる需要増の抑制、等が指摘された。

また、供給サイドでは、前述の通り、既にプロジェクト化が進展し、現実に立ち上がりが見込まれている大量の供給案件に加え、潜在的な供給力候補としてさらに大幅なポテンシャルがある一方で、多くの既存の（成熟化した）LNG プロジェクトにおける今後の生産減退、近年散見される予想外の LNG プロジェクトにおける供給支障発生の可能性、プロジェクトの高コスト化と同時に需要不確実性への対応のための案件立ち上がり遅延（や撤回）の可能性等、供給増加の下方修正に関する要素も多々存在することが議論された。

また、ウクライナ情勢とそれによるロシア及びユーラシア全体のガス市場への影響、中東情勢の流動化等、世界の天然ガス・LNG 市場に影響を及ぼしうる地政学リスクの存在も議論における関心事項であった。

しかし、逆にいえば、こうした不確実性の中で、どうやって LNG 市場をより大きく発展させていくのか、そして LNG が期待されている大きな役割を現実に果たしていくためには、その供給国・消費国、それぞれの政府や関係企業が何をすべきか、ということを実際に考える必要があるということである。

2013 年時点で見ると、世界の天然ガス国際貿易は 1 兆 359 億立米であり、LNG 貿易はその約 3 割、3253 億立米を占めるに過ぎない。これまで基本的には拡大基調を辿ってきた LNG 貿易ではあるが、国際天然ガス市場、さらには国際エネルギー市場全体からみればまだまだまだ小さな存在であり、それだけ今後拡大が期待される余地は大きいと言える。同時に、日本を始め韓国、台湾、等でのガス供給に占める LNG の位置づけは大きく、新たな LNG 輸入大国に成長しつつある中国やインド、近年 LNG 消費国に加わったタイ、シンガポールなど、アジアにとって LNG の存在は重要である。まさに、LNG 市場の健全な発展はアジアの問題であり、アジアの重要課題であるといえるだろう。

今回の研究会で、筆者にとってもう一つ印象に残ったポイントは、LNG 市場とその機能の健全な発展は、アジアにとって、いわゆる 3E に同時に貢献するものではないか、という問題意識に支えられた議論であった。LNG 市場とその市場機能の健全な発展のため、その阻害要因や制約要因をどう取り除いていくのか、関係国の全てのステークホルダーが現状や既得の概念にとらわれず、将来の発展のために英知を結集していく必要があるだろう。

以上